

序

近年の科学技術の進歩は非常にめざましく、その成果が日常生活の中にも様々な形で現れています。あるものは生活にとって便利さ、新しさや楽しさをもたらし、またあるものは廃棄できないものになったり、健康被害の原因物質が現れたりもしています。社会にとっても進歩発展をもたらすものもあれば、一方、問題点を提起してしまうものもあります。しかし、人間はこのような変貌推移する状況の中で新発見を求め、新たな問題点も解決していこうとしています。

当衛生研究所の試験検査や調査研究においても、多くの新しい技術知識が取り入れられ、またその応用がすすめられ、行政課題となる様々な問題について取り組んでいます。

シックハウス症候群の原因物質であるVOCなどの室内空気汚染化学物質に関する調査研究では、国に先んじて東京都として推奨値を提案し、現状の問題解決に少しでも役立つ研究を進めてきました。内分泌かく乱化学物質の問題においては、東京都の取り組み体系とともに衛生研究所の研究計画を立て、その成果が次第に出つつあります。ほ乳瓶やおもちゃなどからの溶出実験結果については、すでにプレス発表がなされました。食品中の残留農薬などについては、厚生省の動きに合わせて数々の実態調査、分析法の研究が成果として上がっています。また、地方衛生研究所には公衆衛生情報の収集解析提供という業務の大きな柱があり、所内LANの構築とインターネット上のホームページ開設をふまえて都民への情報提供を行うとともに、全国の国立研究機関や地方衛生研究所の情報連携に関する研究、所内の様々な管理システムの検討を進めて、実践に結びつけています。

研究成果は一朝一夕には出ません。最近の健康問題は、社会問題化するのも状況の変化も早いことが多く、その行政対応も迅速さが求められます。そして、その科学的基盤を受け持つ衛生研究所は試験検査と調査研究の成果を早く出すように、かつ正確な情報提供が求められています。しかし、そのためには問題把握について先行的な調査研究が必要であるし、分析法や試験法についての日常からのたゆまぬ努力が重要です。研究成果が出るまでには時間と労力を要しています。

第51号の研究年報の発行に当たり、関係機関の皆様や都民の皆様には、これら職員のたゆまぬ努力を理解していただくと同時に、今年度の研究成果についてご意見ご批判などをいただければ幸いです。

平成12年12月

東京都立衛生研究所長 上 木 隆 人